

1. コースの設営 (前日)

無人でもコースを外れないよう誘導設定をすることを基本とする。また渋滞を防ぐ工夫をする。

1 本道：一定間隔に誘導テープを設置。

分かれ道：分岐看板をおき、行ってはいけない道にテープを張り、看板をつける。

道なき道：一定間隔の誘導テープ設置し、さらに1本線でテープを張る。

幅広く取れるルートで渋滞しやすい場所(林の中の登りなど)では、複数のテープで人の流れを分ける。

相互通行：道の中央部を1本テープでわけ、行き先の看板を設置。

誘導テープ、看板設置の方法

誘導テープは腰より下の位置に設置する。立ち入り禁止テープは腰より下で、地面にはわせも可。

距離看板なども、腰より下に設置のこと。場合により地面に置いて可。

■誘導看板

距離看板：A3サイズラミネート。距離はkm単位で小数点1桁まで表示。

現在距離と残り距離の両方を表示。(ロングコース基準) 矢印マークも記載。

■分岐点

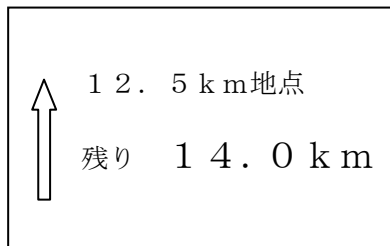
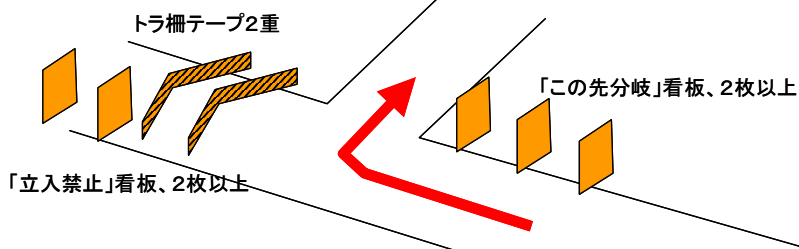
特に分岐点では、走っていても確実にランナーが認識できるように以下のように設置する。

・行ってはいけない方へ、トラ柵テープ(黄色、立入禁止)を腰より下の位置で2重に張る。

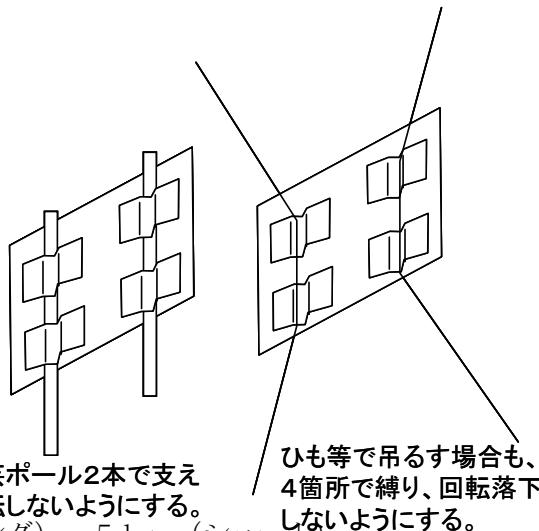
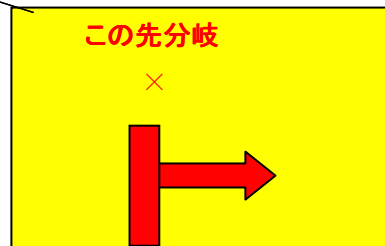
・下図のような看板を必要に応じて設置する。

立入禁止看板：A3サイズ。黄色時に赤文字。特に迷いやすい大きな道の分岐ではA2サイズ

分岐注意看板：分岐手前に3枚連続で掲示。A3サイズ。黄色地に赤文字



距離看板は、A2 縦サイズで表示。



園芸ポール2本で支え 回転しないようにする。

ひも等で吊るす場合も、4箇所縛り、回転落下しないようにする。

■看板類設置上の留意

前日設置するため、夜間に雨や風で、看板がおちたり、向きがかわったりする可能性があります。かならず、看板は2箇所以上でとめ、回転、落下しないようしっかり設置してください。

■距離看板を次の位置に設置。5, 10, 15, 20 km (ロング) 5 km (ショート)

なお、前日設置後、各エリアチーフは誘導テープ、看板の設置状態をチェックすること。

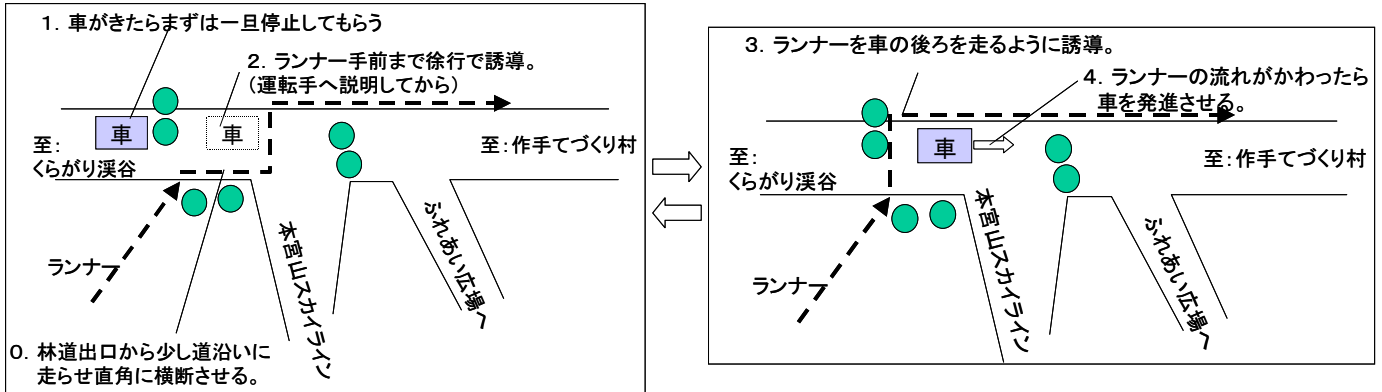
## 2. コースの撤収

スイーパーが通過したら、撤収に入る。

撤収は、撤収ポイントに向かい、すべての看板と誘導テープとゴミを拾いつつ戻ること。  
ルート上、道や地面が荒れている場合は、その場所をチーフへ報告。  
各エリアチーフは距離看板がすべてであることを確認し、撤収忘れがないことを確認する。

## 3. 横断箇所誘導

### ■ふれあい広場出口の誘導方法



### ■その他の横断箇所

- ・車がきたら、一旦停止をお願いします。
- ・ランナーの隙間をぬって通過させる。
- ・車を通過させている間に車がきた場合は、ランナーに一旦停止をお願いします。(コースにたって、制止する)
- ・道路側に、車向けの注意看板を両方向3枚づつ出すこと。

## 4. エイドステーション

- ・ポリタンク2個はランナーのセルフサービス用として使えるようにしておく。
- ・ポリタンクからやかんに水をいれ、さらに紙コップについて机にならべとってもらおう。  
(適宜、スポーツドリンクも2倍希釈程度で作っておく)
- ・補助食品は、バナナは半分に切って、パンはそのままのサイズで出す。
- ・生ゴミはゴミ袋へ、紙コップは使用済、未使用を分別してダンボールで詰めてください。
- ・ゴミ箱も準備しますが、ダンボールのため、雨の場合は外側にもゴミ袋をかぶせ防水する。
- ・各ASに配布される資材などは、別紙「資材一覧」を参照。

## 5. 関門 (稲垣)

第1関門：AS2は、13:30で閉鎖。(ロング最終スタート10:30から3:00)

ただし、この時点では、数分程度の遅れであれば、通過させる。遅れて疲労が見えるランナーは止める。停めたランナーはスタッフの車で会場へ輸送。

**重要：停めたランナーは必ずゼッケンを記録しゴール係へ伝えること。**

第2関門：No.62は、15:00で閉鎖。

これ以降のランナーは、コースへ入らず、県道沿いにゴールまで帰るように誘導。

**重要：直接ゴールへ向ったランナーのゼッケンを記録しゴール係へ伝えること。**

なお、15:00の段階で第2関門に到達していないランナーには、そのまま誘導テープにしたがってコースを進み、第2関門から県道を伝ってゴールへ戻るよう説明する。(各誘導スタッフ)

### その他

蜂を見た、蜂にさされた、などの情報があった場合は、すみやかに、チーフまたはエイドへ連絡。

蜂への注意をランナーへ促す。場合によりその場で大きく安全側へ迂回誘導する。

なお、各エイド、本部には、「蜂用スプレー」を準備している。現場へとどけ、コースから隔離する。

隔離しきれず、多くの被害者がでそうな場合は、一旦、ランナーを止めてもよい。